

新年を迎えて 一目標達成に向けて一

新年明けましておめでとうございます。職員の皆様も気持ちも新たに 2017 年を迎えられたことと思います。昨年の「今年の漢字」には「金」が選ばれましたが、選考理由としてリオのオリンピックでの金メダルや政治における金の問題などが挙げられています。国立病院機構にとって今年の漢字「金」の意味するところは後者のことになるかと思えます。非公務員型の中期目標管理法人になった国立病院機構の財政状況も厳しく、この状態を乗り切るため本部では強靱化計画を作成し、昨年はその説明のための召集がたびたび行われました。国立病院機構には拠出金、公経済負担や整理資源返済などの義務があり、他の公的病院、私的病院に比較し経営的に厳しい状況にあります。特に 26 年度は多くの機構病院の経営状態が悪く本部の収支は法人化してからは最もよくないようです。しかし、今後も人口の減少や高齢化に伴う医療費の高騰が避けられないため、医療を取り巻く環境は益々厳しさを増してくるものと思えます。医療と介護の一体改革により来年度には地域医療計画の策定も実施され、病床の見直しも行われることとなっています。このような状況ですが、高知病院は国立時代から行ってきた医療を次世代に引き継いでいく責任があります。新年は毎年恒例のニューイヤー駅伝（1 月 1 日）、箱根駅伝（1 月 2 日、3 日）が開催されテレビに釘付けになる人も多いかと思いますが、国立医療を継続していくことは駅伝のたすきリレー例えることができるのではないのでしょうか。ニューイヤー駅伝は旭化成、箱根駅伝は青山学院大学がそれぞれ優勝しました。青山学院は箱根駅伝の 3 連覇に加え、出雲駅伝、全日本大学駅伝も勝利しており駅伝の 3 冠を達成し歴史に残る成績を残しました。ニューイヤー駅伝は 7 区間、箱根駅伝は往路、復路の 10 区間で争われ、個々の選手が全力を出し、たすきを手渡してゴールを目指しますが、チームの全ての選手がベストの状態では完走できるとは限りません。時には体に異常を感じ満足な走りができなくなることもあり、次の選手がその遅れを補うこととなります。今回の青山学院も 7 区の下田選手が頑張り 2 位に大差をつけて 9 区の池田選手にたすきをつなぎました。もちろん、駅伝チームの選手は走った選手だけ構成されているものではありません。チームには同じように努力をしているメンバーがたくさんおり、駅伝区間を走っているのはその中から選ばれた選手で、まさにチーム力です。青山学院の駅伝チームを育て上げた原監督の話はいろいろのところで聴く機会がありますが参考になる点が多々あります。特に個人が明確な目標設定を行いその達成を目指す指導方法は非常に参考になりました。高知病院を一つのチームに例えれば、同じように考えることができます。職員個々、職場単位、病院単位の目標を設定しその達成に向かって進んでいくことで次の世代へ円滑に高知病院の行うべき医療を引き継いでいくことができると思えます。今年の目標はいろいろの分野で高知病院が地域でトップになることです。病院運営にとっては厳しい環境ですがピンチをチャンスにかえ、トップを目指して挑戦していきましょう。本年もよろしく願いいたします。